

東山会 会長

土屋総二郎

昭和 48 年卒業(第 32 回)



### 東山会会長就任にあたって

杉田前会長の後を受けて、東山会会長を務めさせていただくことになりました土屋でございます。歴史と伝統ある東山会の会長が、私のようなものに務まるかどうか大変心配ではございますが、諸先輩や副会長、理事の皆様のご支援とご協力を頼りに何とかやらせていただこうと思っております。

杉田前会長をはじめ歴代の会長、関係者の皆様のご努力により東山会は立派な組織として成長してまいりました。1950年に機械系同窓会として発足したのち現在まで66年経過し、会員数も6000名を超えるまでになりました。シニアから若い技術者まで、そして企業で活躍するエンジニア、大学や研究機関での研究者、さらに活躍している地域も中部地域に限らず全国、近年では海外で活躍されている方も多くおられます。このように東山会は歴史を重ね、多くの地域、組織で活躍されている技術者の集まりとなっております。

今年の年初には第14回総会、新年同窓会が開催されました。先日には第16回イブニングサロンが盛況に開催され、東山へ帰る日などの諸活動も定着しております。関東や関西でも支部活動が行われております。会報の発行やホームページの整備も確実に行われており、会員皆様との絆の一つとなっております。これらはひとえに理事・役員の皆様、特に学内の若手の先生方や事務局の献身的なご努力によるもので、あらためて感謝するとともに、これらの活動は今後とも着実に継続していきたいと思っております。

同窓会というのは何らかのご縁があって、若い多感な一時期に学びの場を共有して巣立って行った技術者、研究者の集団です。それがどうした、とお考えになる方もいらっしゃるかもしれませんが、私はその「ご縁」というものを大切にすべきだと思っております。きっと何か自分自身でも気づかない根っこ、あるいはルーツのようなものがあるのかもしれませんが、いろいろなところで活躍される東山会の技術者が、年代を超えて交流できることは本当に素晴らしいことではないでしょうか。東山会の組織・活動は、このようなところに原点があると考えてお

ります。

この原点を軸足に、東山会の活動が皆様のネットワーク構築に少しでもお役にたてればと考えております。同窓会として最も基本的な整備しなければならないものの一つに会員名簿がありますが、2014年度より東山会管理の名簿から大学管理の全学電子名簿システムへの一元化の途上であり、これも着実に進めていかねければなりません。またいろいろな行事において参加者の年代に偏りがあるということもあり、これも今後の課題の一つです。

縁あってこのような大役を務めさせていただくことになりましたが、私の力だけでは到底できないことばかりですので、役員・幹事の皆様、事務局、そして何よりも会員皆様の多大なご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。